

平成 29 年度 第 1 回スポーツ学科 教育課程編成委員会

日時：平成 29 年 5 月 16 日（火） 18:00～19:00

場所：本館 4 階 402 教室

構成員：以下の通り

企業側：池内勇太，梅原哲朗，西脇雅人（敬称略）

学校側：釜谷等，釜谷一平，足立麻由佳，大江信一郎，浅村典正，狩野祐司，小田啓之
（敬称略）

事務局：竹中宏

<報告事項>

- ・本校校長釜谷より，委員会開催についての挨拶
- ・本委員会の企業側の構成員として，兵庫ストークス GM の池内勇太氏，株式会社 Toughtrit 代表取締役の梅原哲朗氏，大阪工業大学講師の西脇雅人氏が就任した。
- ・本校事務長の竹中より，職業実践専門課程の概要説明が行われた。

説明内容

本校では，医療専門課程（鍼灸学科・柔道整復学科・理学療法学科）が既に職業実践専門課程を実施しており，スポーツ学科では今年度 10 月に申請を行い，3 月に認可を受けるように準備を進めている。

教育課程編成委員会は毎年 2 回開催（29 年度は 5 月 16 日，9 月 5 日に開催）する。

- ・本校スポーツ学科 3 コースのコース長・GM（アスレティックトレーナーコース・ライフフィットネストレーナーコース・バスケットボールコース）より各コースの現在の取り組みについての説明が行われた

説明内容

- ・アスレティックトレーナーコース（足立）

アスレティックトレーナーコース（以下 AT コース）は，日本体育協会公認アスレティックトレーナー（以下 AT）の認定校として 2 年間のカリキュラムを提供している。カリキュラムは大きく分けて，座学と実技に分けられる。AT の受験資格を取得するにあたり現場実習を実施しなければならないが，本校では AT 保有者が 10 名以上在籍しており，少人数での実習を可能にしている。また，昨年度より「超実践型教育」というコンセプトの下，1 年後期より積極的にトレーニング資格の取得に向けた取り組みを実施し，1 年次終了時より資格合格を実現している。2 年次においては更なる実学教育を行い複数の企業との連携を取りながら最終的に AT 合格に向けて学生教育を実施している。

- ・ライフフィットネストレーナーコース（大江）

ライフフィットネストレーナーコース（以下 LFT コース）は平成 30 年度入学生よりス

スタートするコースであり、「健康」というキーワードでジュニア世代からシニア世代まですべての年齢層に対して適切な運動指導が出来る人材育成を行っている。LFT コースでは、5つの専攻（パーソナルトレーナー、スポーツ福祉、子ども体育、スタジオエクササイズ、スイミング&アクア）に分かれており、入学時には自由に選択できるようにカリキュラム編成を行っている。

- ・バスケットボールコース（浅村）

バスケットボールコースは競技系コースとして午前はバスケットボールの技術向上、午後は身体についての座学を実施している。在籍している学生は、バスケットボールコース単独の物から、医療やアスレティックトレーナーを併せて受講している場合もある。コース卒業後は就職は勿論のこと、大学編入で更なる技術向上に努める者もいる。また、取得可能資格もトレーナー関連資格から審判、栄養学等多岐にわたっている。近年では、西宮ストークスや大阪エヴェッサと提携を結び、現場実習や前座試合を実施している。

- ・企業側構成員の先生方より本校スポーツ学科の印象についてご感想をいただいた。

- ・バスケットボールの技術向上だけでなく、審判やトレーナーを目指せることは良い。
- ・未来像を持って勉学に取り組む学生が多い印象がある。
- ・卒業生と一緒に仕事を行うことがあるが、レッスンスキルが非常に高い印象がある。
- ・実践力を鍛えることを打ち出し教育を行うことは、世の中の流れでもあり強みになるのではないか。
- ・もう少しプロを目指す学生が増えても良いのではないだろうか。
- ・プロを目指す学生を企業と学校が一体となってサポートできれば良いのではないか。

次回開催日程

平成 29 年 9 月 5 日 18:00~

平成 29 年度 第 2 回スポーツ学科 教育課程編成委員会

日時：平成 29 年 9 月 5 日（火） 18:00～19:00

場所：本館 4 階 401 教室

構成員：以下の通り

企業側：池内勇太，梅原哲朗，西脇雅人（敬称略）

学校側：釜谷等，釜谷一平，足立麻由佳，大江信一郎，浅村典正，狩野祐司，小田啓之
（敬称略）

事務局：竹中宏

1、学校長挨拶

2、本日の議題

・各コースでの退学率阻止の為の方策

足立) アスレティックトレーナーコースでは、「社会に貢献するアスレティックトレーナーの育成」を目標としてモチベーションを維持させることを重要課題として取り組んでいる。アスレティックトレーナーの楽しさ・魅力を伝えるために「AT 特論」という授業を実施している。この授業では様々な競技で活躍されているアスレティックトレーナーを講師として招き、本校教員と連携を取りながら学生にアスレティックトレーナーの魅力を伝えるようにしている。また、クラスのホームルームでは定期的に目標設定を行う機会を設けるようにしている。

大江) ライフ・フィットネストレーナーコースは「健康・体力の維持増進」を目標として取り組んでいる。退学理由は①金銭的問題、②モチベーションの低下と学力が挙げられる。金銭的な問題に関しては奨学金や教育ローンを紹介するようにしている。モチベーションの低下や学力低下に関しては教員が早期にフォローを入れるとともに、現場実習（様々な施設での現場実習）を積極的に行い、業界で働くことの楽しさを経験してもらおうようにしている。

浅村) バasketボールコースでは、毎日の練習の中で顔を合わせ、学生への声かけを心がけている。また、全学生に役職を与えることで責任を持たせるようにしている。さらに、年に 3 回程度個人面談を実施したり、ホームルームを使って目標設定を実施している。今後は、企業の方々と連携を取って学生たちに様々な社会を知ってもらう機会を提供できるようにすることを考えている。

議論（先生方からのご意見・コメント）

梅原) 退学者は全体の何パーセントくらいまでに留めたいと考えているのか？退学者の状況把握はされているのか？

大江) 前職からの経験上 10%が一つの基準になると考えている。退学者の退学理由は担任が学生とコミュニケーションを積極的に取っているので把握している。

梅原) フィットネスクラブの退会者の退会理由に関して把握しきれていないことが多いので、御校の取り組みは企業として非常に参考になる。

西脇) 大学でも退学率低下に関しては大きな課題となっている。大学では、かつて夜間部の体育の授業を廃止した時期があった。この期間の退学率が 10%を超えるようになった。その後体育を復活させたことで退学率が低下した。また、部活動の顧問を積極的に引き受け、学生と関わるように大学として取り組んでいる。さらに、退学理由を定量化するようにし、今後の入試等に活かしている。

池内) 高い志をもって入学しているだけに途中で退学してしまうことは非常に勿体ないと感じる。将来の就職を意識したカリキュラムを企業と連携を取りながら作ることがよいのではないかと考える。また、各コースにアドバイザーのようなスタッフがいるのか？アドバイザーがいることで担任には相談できないことが相談でき、退学の抑止にも繋がるのではないだろうか？

校長) アドバイザーは配置していないが、カウンセラーを配置している。年間の利用件数は報告を受けている。利用する学生は深刻な状況になっていることが多いという報告もある。

池内) 深刻な状況になる前にどのように対応しているのか？

釜谷等) 担任が対応するようにしている。

池内) 早期に対応できるようにアドバイザーの配置も必要になるのではないかと？

・各コースでの就職後の離職率低下に向けた対策

足立) 就職後の早期離職に対する各コースでの対策に関して、早期離職を 1 年未満で退職した場合と定義した。アスレティックトレーナーコースでは、毎年 1 月に東京にて研修を実施しており、その研修では日本の第一線で活躍されているトレーナーの方や、業界の方々を招き、学生と直接対話を取っている。その結果、最先端を肌で感じることができ、将来の目標や働く姿を明確化できるようになりつつある。また、そこから興味を持った企業を研究し、能動的に就職活動ができるように促している。近年では、就職活動の範囲が全国に広がってきている。

大江) 離職率の低下に関して、昨年度卒業生の中でも既に 2 名離職している。両者ともに自分の希望から少し離れたところに慌てて入職し、理想と現実とのギャップで離職したというものであった。ライフ・フィットネストレーナーコースでは、業界の企業の

方々に講師として授業を担当していただいているので、授業の中から様々な情報を得ること、現場実習に積極的に経験することで離職率低下に努めている。

浅村) 進路指導に対して時間をかけて、学生自身が能動的に就職を探すようにする。また、就職先に積極的に訪問し、卒業生の顔を見に行くようにする。

議論 (先生方からのご意見・コメント)

梅原) 弊社に関しては、アルバイトレベルでは早期離職者が多い。組織を運営する立場から言えることは、就職活動の過程で沢山の方々に関わってもらうことが重要ではないかと考える。また、社会の厳しさはできるだけ学生の内から伝えることも重要である。特に報告・連絡・相談に関しては基礎的なところであるので徹底した教育が必要になってくるのではないかと考える。

西脇) 大学では、就職活動の先輩(4年生)が後輩(3年生)に対して紹介をする取り組みを行っている。また、様々な業界に就職したOB・OGを招きガイダンスを行っている。

池内) バasketボールの業界では、早期離職が高い。プロの世界なので華やかには見えるが、業務は非常に多く、理想と現実のギャップを感じる人が多い。その結果、近年では新卒を採用することが少ない。大半のケースが長期のインターンシップを経験し、その中で見極める。御校OGである山口もインターンシップからの採用である。山口も当初は退職も考えていたがフォローしながら現在ではマネージャーを務めている。個人的な意見としては、企業での長期間のインターンシップを単位として認めるシステムを企業と連携して確立することで、早期離職も低下できるのではないかと考える。

・フリーディスカッション

大江) 大学では、就職専門のスタッフが学生にどのように関わっているのか？

西脇) 大学は非常に就職に力を入れている。学生は1学科100名程度であり、各学科に就職スタッフを1名配置している。就職スタッフは学生はもちろん、常にOB・OGが勤めている企業と連携をとっており、就職率がスタッフの給与にも影響する。

西脇) 大学の場合、上級生がアルバイトで下級生の面倒を見ることがあるが、上級生が下級生を教えることはあるのか？

足立) アスレティックトレーナーコースでは現場実習で上級生が下級生を指導することはある。

大江) 学生の母数が少ないので教員からの働きかけがなくても自然に上級生と下級生が関わりを持つようになる。

浅村) 練習の中で関りを持つ。

釜谷一) 体育の実技がなくなったことですぐに退学率上昇に繋がったのか？

西脇) 繋がったと考えている。

釜谷等) かつて大学は体育実技が必修であったが、今は必修ではないのか？

西脇) 現在は、必修ではなく各大学で決めることができる。

梅原) 離職後に学校に戻ってくることはあるのか？その分析はしているのか？

浅村) 調査したところ「他にやりたいことが見つかった」というケースが多い。

梅原) それは本音と建前なのか？

浅村) 本人の友人など様々なルートから確認を取ったが本人が言う内容と同様であった。

大江) 人間関係の纏れのケースもある。会員様、スタッフ等

足立) 人間関係の纏れや上司の離職による労働環境の変化もあった。

釜谷等) 本校の場合、退学者の内、金銭的な問題で退学するケースが多い。

竹中) 特に地方から来ている学生が退学するケースが多く、アルバイトも行いながら何とか生活している学生もいる。入学前には、「金銭的に余裕を持つように」と指導はしている。

3、 閉会の言葉 (釜谷一)

次回は来年度に実施。日時は今後調整する。

次回は第2回の会議の内容を各コースで検討・実施しその結果報告を行う。